

令和５年度 第２回 江東区みどりの基本計画推進会議への意見書

日 時 令和５年 12 月 20 日（水）10：00～12：00

場 所 江東区文化センタ４階 第２、３会議室

◆議題１ みどりの基本計画中間時点の取組み状況

主なご意見
取組み状況について、概ね適正に取り組んでいると思いました。予算やさまざまな関連事情から進められない事業もあると思いますが、顕彰制度などすぐに取り組めると思われる事業もあり、「C」実施なしだと、何もしていないということになり、どのようなことを検討し、どこまで進んだまで示されるとよいと思いました。これについては、副会長が「実施状況を示しただけ、評価になっていない」と発言されていましたが、他の事業も含め「評価」が必要だと思いました。また、生きものについての事業もいくつかありますが、策定が求められる「生物多様性地域戦略」という具体的な記述はありません。環境基本計画あるいは別途「生物多様性地域戦略」を独自に検討するということで、みどりの基本計画に記載がないとしても、生きものに関する基本的な考え方になるので、こちらにも記載すべき事項と思いました。また、予算にも関連しますが、パークマネージメントの観点が今後重要になると思います。公園緑地関係部署だけでなく、みどりは福祉、教育など多分野に関連するので、これらを含めた費用対効果を考えると、みどりの必要性がより理解されやすく、活用できるのではないのでしょうか。
今後の中間見直しの要点として、委員会で論点になった「新しい社会への変化」への対応が需要と考えます。生物多様性や気候変動、ウェルビーイング等、社会の大きな潮流は様々ありますが、事業者の視点では特に「ネイチャーポジティブ」の機運が急速に高まっています。 本年度からはじまった環境省の自然共生サイト認定をはじめ、すでに事業者による実践が加速しており、今後、区内でも生態系の回復に貢献できる緑地づくりや保全活動の支援等、事業者の取組が増えていくと予想されます。一方で、ネイチャーポジティブという観点では、事業者単独での取組みに留まらず行政や区・NPO・市民団体、学校などとの連携が重要になります。みどりの基本計画における生物多様性の位置づけを強化して、エコロジカルネットワークのように事業者を含め様々な主体が取組・連携がしやすい計画・枠組を示していけるのが望ましいと考えます。
江東区みどり 100 景の作成にあたって運用を検討されているとのことでしたが、選考（審査）過程にも区民の皆さま、例えば小中学校を巻き込み一票を入れていただくことで、自分事にしていただいたり、施策としてもより一層盛り上がるように感じました。 情報発信に関する提案です。みどりの基本計画について、各目標の進捗状況を一覧的に参照できる「見える化ダッシュボード」をデジタル的に整備・公開して、目標ごとに担当部署自身が随時更新する運用とすることができれば、区民の皆さまともタイムリーに状況を共有でき、関心を持っていただけるのではないのでしょうか。また、推進会議内でもその都度、その場で最新の状況を共有できるメリットがあるように感じました。
最近までコロナ禍により休止とされていた事業が多かったが、今年度は積極的に取り組み、計画や運営といったソフト部分の充実が意図されてきている。また、他の活動団体との連携を図ることで、各事業がますます力づくのではないかと感じた。 特に今年 1 月 1 日に発生した能登半島地震では、被災者が、避難所で肩を寄せ合いお互いに励まし合う様子がテレビに写し出されると、まさにコミュニティレジリエンスが大切と思った。 そして、みどりを通じてコミュニティづくりができる C I G を広げることで、区内マンションの皆さんとマンションのコミュニティの充実を図りたいと思った。

主なご意見
残念だったのが、CIG の活動であるみどりを増やすということが各課に理解されずに形上、ルール上での対応になってしまっていることです。小学校、保育園、老人ホーム、図書館、どんな人たちがそこで時間を過ごし、どんなみどりを求めているのか、まずはしっかりとヒアリングをし、その環境に合うみどりのあり方を提案、実行する。そこまでの活動がないと、見せかけだけで区民に大切にもらえる街づくりは難しいのではと思いました。

◆議題 2 江東区みどりの基本計画推進会議部会の活動報告

主なご意見
区民から区へ要望を伝えることは、現状なかなかハードルが高いので、“あったらいいな”をまずは伝える場としても、部会が存在してくれることはありがたいです。そこから、その課題をどう実現していけるか、のアドバイスの場にもなり得ると思います。ぜひ、CIG 推進係だけでなく、温暖化対策課、保育課、などなど、各課にも部会の存在があってくると、地域課題を把握しやすく、課題解決の糸口になるのではと思います。部会の活動が他部署にも広がることを願います。
個人的には、部会について参加できないことも多く、当初は課題の検討方法についてどのようにしたらいいかわかりませんでしたが、毎月の開催で具体的な現場を視察しての取り組みなどを通じて、東陽地区に焦点を当てた検討を他に生かすなど、ひとつの地域に取り組むことが他の地域や 7 つの課題の解決に向けた有効な取り組みであることが実感として理解でき、部会活動の可能性も実感しました。 また、部会活動の一番の成果は、まだまだ、多くの関係者が関わっているとは言えませんが、区内で活動している方々のお顔が見え、活動の内容、方向性なども共有でき、「フェスタ」などの催事も含め、協働できていることが大きな成果だと思っています。
部会メンバーとして参加しており、改めて区、NPO・市民団体、区民、企業がフラットに対話できる貴重な連携の場になっている点も非常に先駆的な試みと感じています。 一方で、有志の集まりであるため活動の持続性やさらなる展開には課題もあるように思います。みどりの基本計画における部会の位置づけ明確にするとともに、産官学民の連携を支援できる仕組み・体制づくりが重要と考えます。
自分だけかもしれないが、当初 お互いが何をしている人なのか、興味範囲はなど、みどりの推進会議部会で集まったメンバーについて良く分からなかった。しかし今では基本計画は当たり前の様に意見を出し合い、自分の関心領域を広げる効果をもたらしている。3 人寄れば文殊の知恵ではないが、何かできるのではないかと期待感ももたしている。

◆議題 3 江東区緑化指導のあり方検討委員会の活動報告

主なご意見
前回、居住地のみどりが切られていた話をしましたが、それに続き、次は家の向かえにある寺の桜の木が、10 本以上切られてしまいました。色々なことが同時進行で大変だとは思いますが、スピード感を持って対策案を考えて頂きたいです。幸い、お寺の真ん中にある桜の巨木は切られずにすんでいましたが、目の前に住んでいるのに無力感でいっぱいです。お寺も何か事情があるのかもしれません、区と一緒に残しているける方法を考えられたらよかったのと思います。現在検討中の江東区みどり 100 景にもぜひ登録してもらいたい桜の木です。増やすこともそうですが、今ある貴重なみどりをどう守っていけるのか、何か出来ることがあったのではないかと、今も考え続けています。

主なご意見

緑化指導について、計画時の指導について、図面等の提出などできちんと実施されていると思いますが、以前も話題提起しましたが、区役所でデベロッパーさんと思われる方の話が聞こえ、植栽スペースを完成後は駐輪場にになってしまう内容の会話でした。実際の現場がどうなっているかは分かりませんが、このような形でせっかくの緑化指導が形だけのものになってしまうのはとても残念ですし、集合住宅で管理組合の意向で大きな樹木が伐採されるというお話も部会の中でお聞きました。緑化協定など何らかの保護策、なかなか難しいとは思いますが、税制等の優遇などの措置があると、こうしてなくなってしまうがちな緑を保全できると思います。

施策一覧の中に、公園施設長寿命化計画策定が挙げられている。計画的なメンテナンスが行われる事でメンテナンスコストを効率的に掛けることが出来、植えられた植栽の健康状態も、良いものに保たれるからである。そしてその後の状態の定期的なチェックも行われる。

区内で開発行為がなされる場合、緑化指導が行われているが、その後の状態チェックが行われていない。植えた当初の植栽が、何らかの理由で欠けてしまったとしても、そのままになってしまっている事が多々ある。開発後の「メンテナンス計画」の提出も必須とできないだろうか。マンションの場合、建物や設備の長期修繕計画が準備されている、同様なものが有れば維持管理に効果が有るのではないだろうか。

◆自由記載（補足など）

主なご意見

現状、区民の皆さまに取り組みについて知っていただく部分に課題感があるように感じています。世間的にも情報開示の動きが強まるなか、部署を超えて、自治体 DX と絡めて効率や効果を高めつつこの部分を強化していくことで一人ひとりに自分事として捉えてもらうことができ、計画の達成に向けての取り組みも加速していけると考えます。江東区の魅力が高まったり取り組みが認知されたりすることで転入率の維持向上や新たな連携事例の創出も期待ができます。

「3 みどりを安全と生命を支えるために充実させます」のところに、「災害時における舟運の活用」とある。

以前マンション管理業協会との協働で、クローバー橋の船着場を使った救援物資の積み込みと避難訓練、小名木川沿いの柵に設けられた扉から船へ乗り込む訓練（船には固定式梯子を用意）と、高橋防災船着場で集合し、物資（中身はお菓子）の荷揚げと手渡しの訓練、参加者達の広域避難場所である海洋大学へ、船での避難訓練と、3 地点を使った盛り沢山の防災訓練を実施した。この時船着場が実際に使えるかは、大きなポイントだった。船が来ることが出来ても船着場が実際に使えるかどうかは分からないからである。

我々は実際日本橋で行ったイベントで、船が着けないという経験もしていた。船着場周辺に泥が溜まり、船が座礁したのである。この時は“義経八艘飛び”ではないが座礁船の横に2 艘の船を横づけして、予約客はそれを次々に乗り継いで乗船する様にした。予約客は皆得難い経験が出来たと喜んでいて、1 つのクレームも無かった。しかし非常時にはこういう事は通用しない。協会との協働訓練では、協力した船会社の方で水深を測り、事前に調査を行った。日常使っていればこうした調査も必要なかったのではないだろうか。

昨年の3月11日、東大島の川の駅でポートフェス in 旧中川という防災イベントを行った。荒川下流河川事務所のロックゲート会議室で「東京東部地域の防災」という講演会を実施し、終了後に会場近くの緊急用船着場から船で防災展示を行っていた中川船番所に戻る計画を立てた。しかし船着場に泥が溜まり、水深が浅く着船できないとの事で断念した。上流からの砂が流れ着くからである。

江東区は歴史的に見ても水に弱い地域である。非常事態となった時には予測通りとはいかない事態が起きると考えた方がいい。そのためにも日常からの船着場の利用、水と緑のネットワークの繋がりと連携を意識していきたいと考える。